

日 付：2024 年 9 月 4 日

研修名：第 70 回 JR 広島病院オープンカンファレンス

タイトル：研修医の先生が提示して下さった症例に基づく振り返りカンファレンス

氏 名：志水 太郎

所 属：獨協医科大学総合診療医学主任教授・獨協医科大学病院総合診療科診療部長

座 長：田妻 進 病院長

「診断の質 Diagnostic Quality」という概念がこの 20 年くらいで世界的に注目されるようになりました。良質な診断、つまり診断の質がよいことは、正確かつ迅速に診断を行い、かつ患者にとって最も適切なケアを提供できるということを指します。一方、診断の質が悪いと患者の健康予後はもちろん、医療全体の質や医療経済にも大きな影響を及ぼします。診断の質が悪いということは、診断の遅れ、間違い、見過ごしが多いことが原因で、これを診断エラーと総称します。米国アカデミーの報告によれば、診断エラーは医療過誤全体の負債のうち最大の 27%（円換算で年間約 1,700 億円）の割合で、また医療訴訟全体の約 20%の割合を占めるとされています。また日本では内科医が敗訴した訴訟のうち 54%が診断エラーに関連しているという報告もあるように、診断の質の向上は世界はもちろん国内でも最優先に値する課題となっています。診断エラーは病院で頻度が高く、また診断の質を高めるには横断的・包括的な学術的考察と臨床技術、そして管理能力が必要です。そのため診断の質は病院総合診療で特に重要で、またこの能力は病院総合診療専門医の専門性にもフィットしています。

診断エラーは医師の診断思考能力を含む多くの要因が複雑に絡み合って起こります。この領域の研究はこれまで、それぞれの要因の各論的な探求に焦点が当たってきましたが、今後はこれらの要因を統合的に捉える段階に来ています。診断の質を向上させるためには診断思考能力を中心に、認知バイアスや不確実性、患者とのコミュニケーション、多職種連携など、診断に関連する多くの要因を統合的に考慮するアプローチが必要です。このアプローチにより、診断の質を向上させるための実践的な方策が提供され、医療現場での診断精度の向上を目指すことができるでしょう。とはいえ日常臨床の前線にいる個々の医師の視点では、このような多様な要素をバランスよく意識しつつも、診断の質の中心軸となる臨床推論・思考能力を地道に高める訓練がやはり何より重要です。

この度の貴院のカンファレンスではこの訓練の一環として田妻先生・野村先生のご高配のもと、症例形式のカンファレンスを行わせていただきたいと思います。このカンファレンスでは研修医の先生方が提示する症例に基づき、診断推論のプロセスをリアルタイムで振り返り、学びを深めることを目的とします。診断の思考能力の訓練は、実際の症例での思考プロセスのアウトプットと振り返りが最も効果的です。そこでこのカンファレンスを参加型とし、参加者全員が積極的に意見を交換できる機会のあるインタラクティブな場とします。症例では小出しに情報が提供されます。例えば、患者の初診時の主訴や既往

歴、身体所見、検査結果などが順次提示されるたびに、その情報に基づいて診断推論を進めます。各ステップでは、どのような鑑別診断が考慮されるべきか、またどのようにして診断の選択肢が絞り込まれていくのかを詳細に検討します。適宜参加者の先生方からもコメントを頂きたいと思っています。例えば、ある時点で「この時点で考慮すべき鑑別診断と根拠は何でしょうか?」といった問いかけを行い、会場全体でのディスカッションを促進します。これにより、参加者は自らの診断思考を再評価し、他の医師の視点やアプローチを学ぶことができ、診断推論の個人技術を向上させるきっかけが得られることとなります。当日の時間はタイトですが、最後に僅かな時間ながら参加者全員で診断の振り返りを行い、学びを総括します。特に診断推論におけるバイアスの影響や、それを克服するための方策について議論します。

ディスカッサントの志水は提示される症例の内容について事前に知らされていません。そのため当日は会場の皆様と同じ目線でリアルタイムの考え方を共有できると思います。

病院総合診療の本丸である広島、そして田妻先生のお膝元であり最新鋭の病院である JR 広島病院での講演の機会を賜り、改めて心より感謝申し上げます。当日のカンファレンスで得られた知見が、広島の皆様、ひいてはこれが国内に disseminate されることで診断の質向上や総合診療の発展に大きく寄与することを、心より願っています。